

●清水風遺跡

●唐古・鍵遺跡史跡公園

写真手前には唐古池、唐古・鍵遺跡史跡公園があり、その北側に清水風遺跡が広がっています。

清水風遺跡第7次調査で出土した、両手を広げる女性シャーマンが描かれた絵画土器。体に描かれた乳房表現は類例がないものです。



出土した土器の一部。真っ黒な「おこげ」が付着しており、食材を煮込んでいたことがわかりました。

よみがえる弥生の祭場

令和2年度企画展
「唐古・鍵遺跡と清水風遺跡」



弥生時代のマツリにおける、鳥装のシャーマンから種籾が配られる風景

ご来場される皆さんへお願い

- 入館時に健康状態などの確認を行います。
(発熱や風邪症状などのある人の入館はお断りしております)
- 展示室内が混雑しないよう、一時的な入館制限を行う場合もあります。
- マスク着用・手指の消毒

「清水風(しみずかぜ)遺跡」

田原本町唐古から天理市庵治町にかけて広がる弥生時代の遺跡であり、2つの大きな特徴をもっています。一つは、この遺跡が、唐古・鍵遺跡に次ぐ日本で2番目に多く絵画土器が見つかる場所であることです。そしてもう一つは、神々に祈りをささげる儀式「マツリ」に使われたと考えられているものが多く出土していることです。その反面、弥生時代の人々の暮らしがわかる日常生活道具類はほとんど見つかりません。今回の企画展では、鳥装のシャーマンを描いた絵画土器をはじめとした清水風遺跡の出土品を展示し、どのような遺跡であったのか、弥生時代の「マツリ」とはどのようなものだったのか、その実像に迫ります。

☎ 唐古・鍵考古学ミュージアム ☎ 34-7100

開催期間

10月24日(土)～12月6日(日)

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●月曜日は休館(11月23日(月・祝)は開館し、24日(火)に休館します)

場所

青垣生涯学習センター2階会議室(特別展示室)

観覧

一般 200円(常設展との共通券 300円)

高校・大学生 100円(常設展との共通券 150円)

※中学生以下は観覧無料。

※JAF会員は、会員証提示で50円引。

※10月30日(金)～11月1日(日)、11月14日(土)・15日(日)は、常設展・企画展ともに観覧無料。

※他機関が所蔵する唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の出土品を、町で展示する里帰り展示です。当初は春季企画展として展示予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、会期を変更しています。



◀「タテカの大冒険」YouTube 配信中!
詳しくはホームページをチェック

インタビュー

～令和2年度企画展の見どころ～

今回の企画展は、町が昨年発掘調査した「清水風遺跡の出土品」を紹介します。また、現在、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館(以下橿博)がリニューアル・休館中のため、橿博と共同企画で清水風遺跡の出土品を里帰りさせることにしました。

唐古・鍵考古学ミュージアムではYouTubeで「タテカの大冒険」を配信中ですが、主人公のタテカくんは、実は今回の企画展のメインテーマである「絵画土器」に描かれていた人物なのです。この土器は、平成8年の調査で見つかり、各紙の一面を飾りました。弥生の絵画土器として、五指に入る重要なものなのです。そこで今回は、清水風遺跡から出土した絵画土器を全て見てもらおうと、橿博所蔵品も里帰りさせました。今後、このようなことはなかなかできないと思います。



▲動画で活躍中のタテカくん

それでは、なぜ清水風遺跡では絵画土器が多いのか。その理由を考えるため、過去に調査した出土品約130箱を丁寧に調べることから始めましたが、これが大変でした。土器を1点1点調べ、さまざまな分野の研究者にも協力を仰ぎ、9ヵ月を要してやっと成果ができました。



▲清水風遺跡から出土した多数の土器

「おこげ」ひとつから想像できる弥生時代の風景。その面白さをぜひ感じてみてください。

まず、この遺跡で多量の「朱」を精製していることが判明しました。朱の赤い色は、古代の人たちにとって邪気を払うものとみられており、特別なものがこの遺跡にはあるということです。

また、土器の内部に「おこげ」がたくさん付着しているものも見つかりました。分析の結果、米だけでなく、キビなどの雑穀とイノシシのような動物の雑穀とイノシシのような動物の食材を煮込んでいたとわかりました。他にも海産魚類を煮込んだものも見つかり、この遺跡では、米だけでなく、雑穀やイノシシ、イワシやサバなどの海産魚類などを煮込む盛大な儀式が行われていたことが推測できるようになりました。



▲土器の内側に付着した真っ黒い「おこげ」

このように、清水風遺跡から出土したたくさんの土器は、日常に使用しただけのものではなく、特別な使われ方をしたものであるのです。そこから読み解けるのは清水風遺跡が非常に特殊な集落であった、すなわち、唐古・鍵ムラの衛星集落としてではなく「唐古・鍵ムラのマツリ」であった可能性があるといえます。



今回の企画展のキーワードは、シャーマン(絵画)・赤(朱)・黒(おこげ)なのです。

文化財保存課主幹 唐古・鍵考古学ミュージアム チーフプロデューサー

藤田三郎

関連講演会 唐古・鍵考古学ミュージアム ☎ 34-7100

●特別講演会

「弥生のマツリと動物信仰—鹿と鳥を中心として—」

日時 11月14日(土) 午後2時～4時

場所 青垣生涯学習センター2階研修室
(サテライト会場：1階 視聴覚室)

定員 70人(先着順)



特別講演会講師 平林章仁さん
(元龍谷大学教授)

Profile

昭和23年生まれ。昭和46年龍谷大学文学部史学科卒業。平成14年博士(文学、皇學館大学)。平成29年龍谷大学文学部歴史学科教授を定年退職。専門は日本古代史で、特に律令制以前の政治・文化・宗教・氏族・神話などの研究を通して、古代の人々の精神・心性の解明を目指している。著書に『鹿と鳥の文化史 古代日本の儀礼と呪術』、『物部氏と石上神宮の古代史』など多数。

●講演会

『「弥生の祭祀空間」を復元する—清水風遺跡の調査と意義—』

日時 11月23日(月・祝)
午後2時～4時

場所 青垣生涯学習センター2階研修室
(サテライト会場：1階 視聴覚室)

講師 柴田将幹(文化財保存課)

定員 70人(先着順)



▲清水風遺跡の絵画土器